

第1章 「新入生調査」の結果

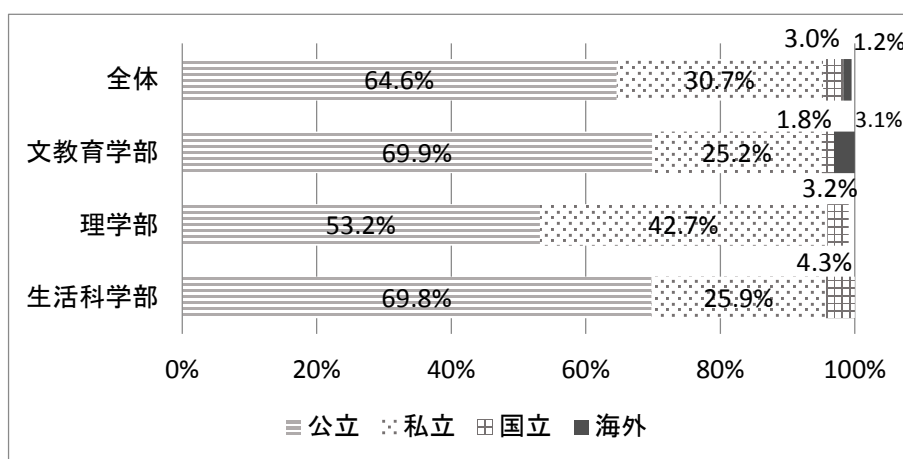
(1) 出身高校

はじめに出身高校について①設置者、②種類、③学科を示す。図表では新入生全体と学部別の内訳を示した。

① 設置者

図表 1-1 に出身高校の設置者についての結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

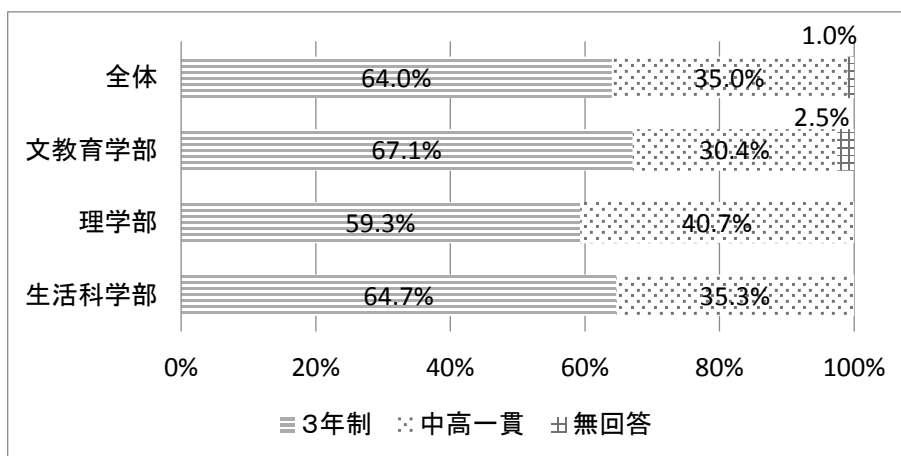
全体では、「公立」64.6%、「私立」30.7%、「国立」3.0%、「海外」1.2%であった。学部別では、文教育学部と生活科学部は「公立」の割合が高く、69.9%と69.8%である。この傾向は、平成28年度および平成27年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2016）。



図表 1-1 出身高校の設置者

② 種類

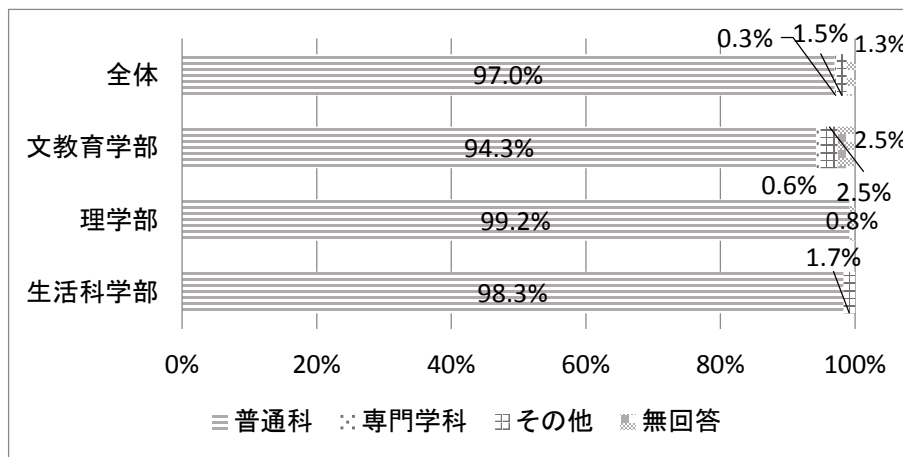
図表 1-2 に出身高校の種類について、「3年制」「中高一貫」の別に示す。全体では、「3年制」が64.0%、「中高一貫」35.0%と昨年とほぼ同様であった。



図表 1-2 出身高校の種類

③ 学科

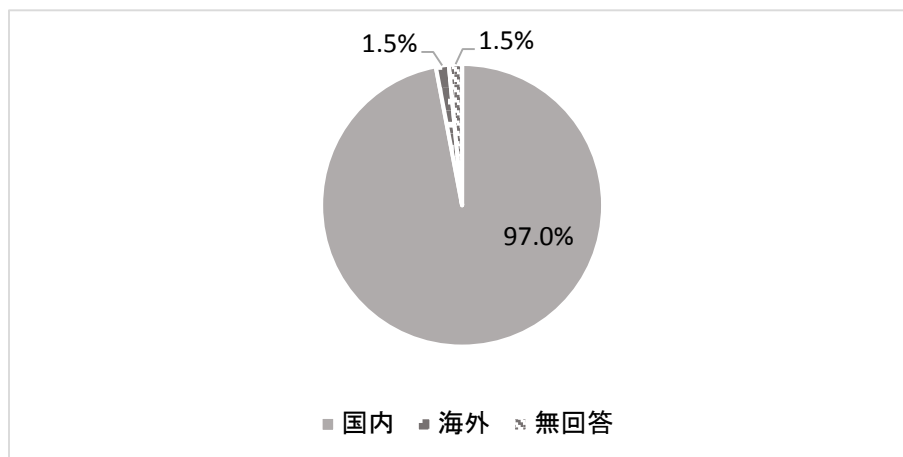
図表 1-3 に出身高校の学科を「普通科（理数科も含む）」「総合学科」「専門学科（商業・工業、家庭、農業科など）」「その他」別に示す。全体の 97.0%が「普通科」であり、学部別でも大きな差異はない。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の 97.0%が「国内」であり、1.5%が海外の高校を卒業している。



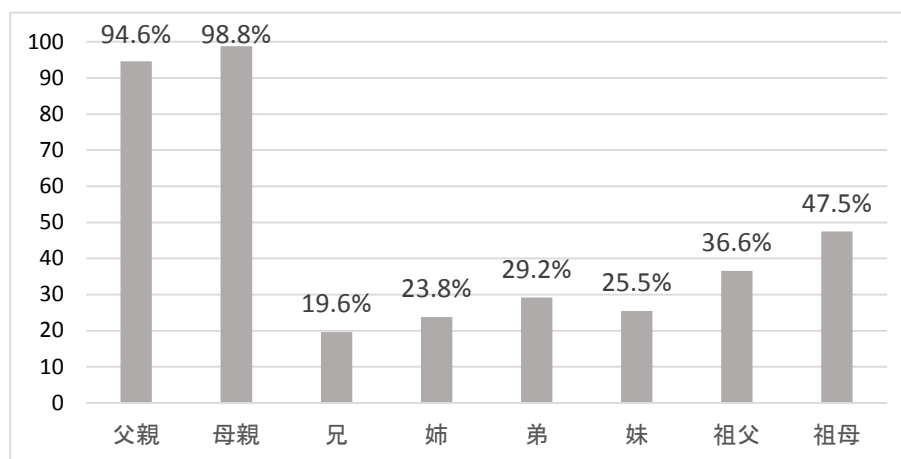
図表 1-4 出身高校の所在地

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数、④私立学校在籍（予定含む）のきょうだい数について示す。

① 家族構成

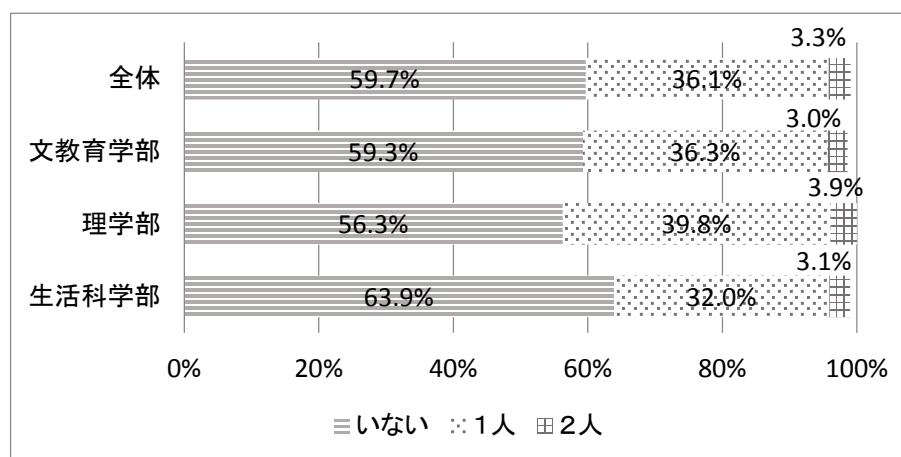
図表 2-1 に新入生の家族構成に関する結果を示す。同居を問わず家族構成について、複数選択可として回答を得た。今年度の新入生の家族構成について、祖母がいる学生は47.5%と、平成28年度新入生での44.0%と比較して多い割合である。



図表 2-1 家族構成

② 高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数

図表 2-2 は、大学（大学院）・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定のきょうだい数（自分を除く）を尋ねた結果である。全体の59.7%が「いない」、1人は36.1%、2人は3.3%である。平成28年度も同様の傾向であった。

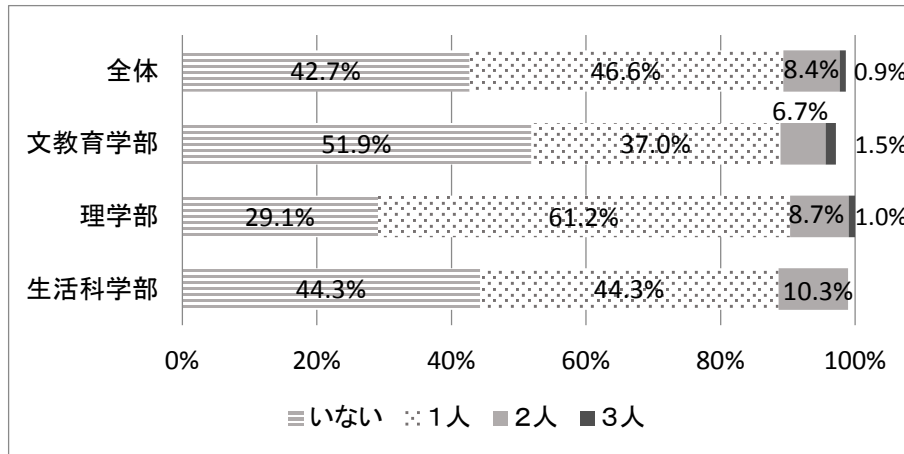


図表 2-2 高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数

③ 私立学校在籍（予定含む）のきょうだい数

図表 2-3 は、私立の大学（大学院）・短期大学・高校・中学・小学校に正規の学生として在学する、または来年度から進学予定のきょうだい数（自分を除く）について尋ねた結果である。

全体の 42.7%が「いない」、46.6%が「1人」、8.4%が「2人」である。理学部の新入生は、私立学校在籍するきょうだいをもつ人の割合が他学部よりも多い。



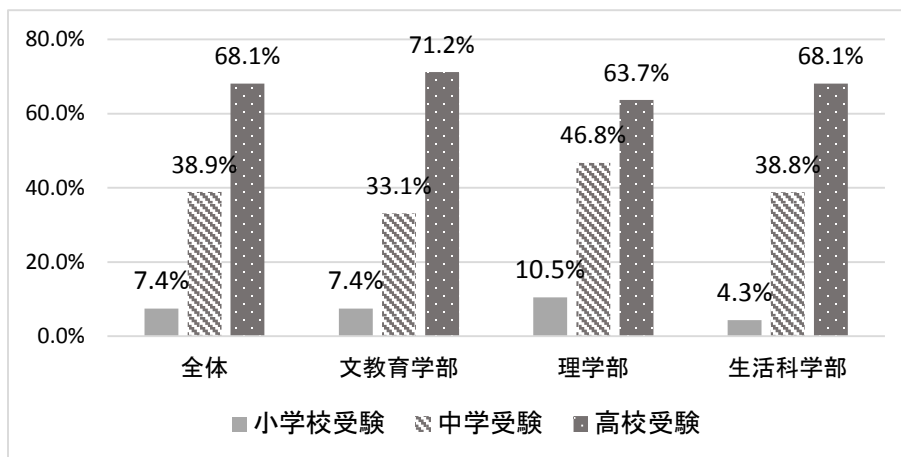
図表 2-3 私立学校在籍（予定含む）のきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

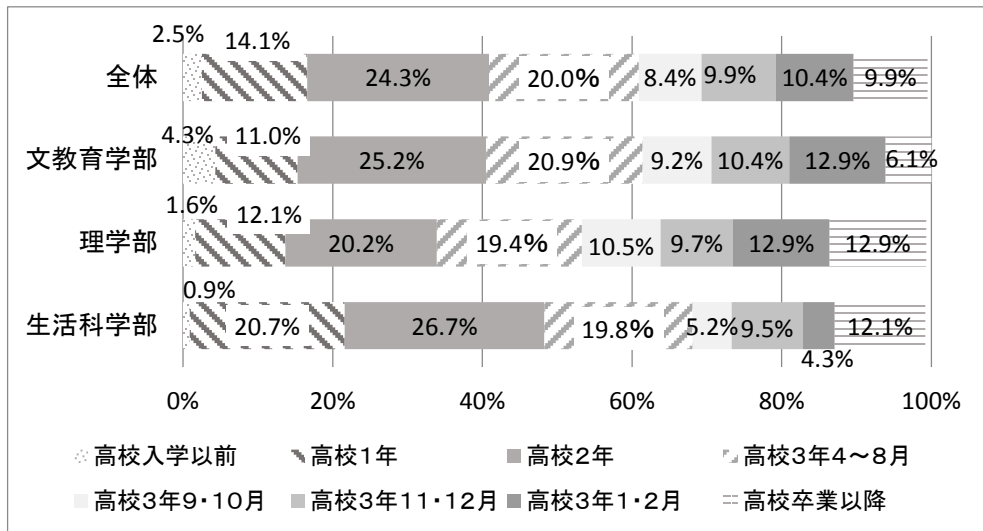
図表 3-1 は、中学校の受験の経験について尋ねた結果である。全体の 7.4%が小学校受験を、全体の 38.9%が中学受験を経験し、高校受験は全体の 68.1%が経験している。この傾向は、平成 28 年度新入生でも同様に見られる。「第 2 回 大学生の学習・生活実態調査」(Benesse 教育研究開発センター 2013)における大学生の中学受験経験率は 27.8%と比較すると、本学の新生の中学受験経験率は高い方に偏っている。



図表 3-1 これまでの受験経験

② 本学の受験を決めた時期

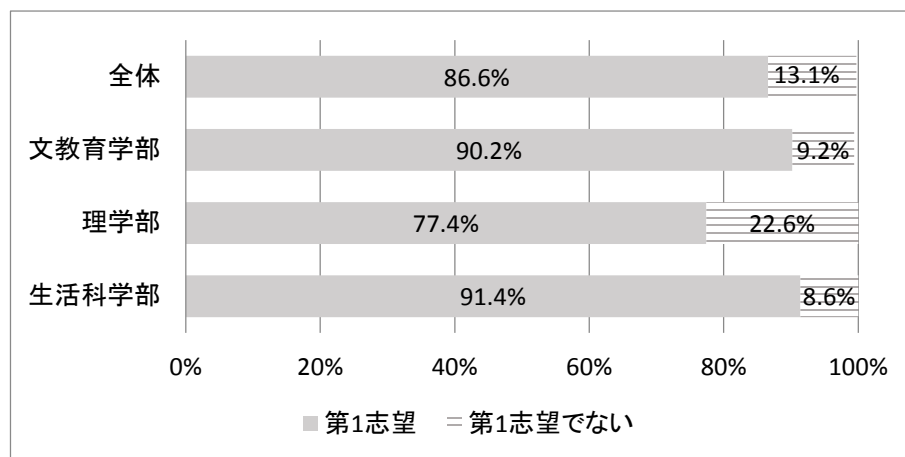
本学の受験を決めた時期について、その時期を尋ねた結果が図表 3-2 である。全体では「高校 2 年」が 24.3%と最も高く、「高校 3 年 4～8 月」20.0%がそれに続いている。学部別では、理学部は高校 3 年の 9 月以降に本学の受験を決めた割合が多いことが特徴である。



図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体でみると 86.6%の新入生が本学を第一志望としており、昨年度 90.6%より 4.0 ポイント程度低下した（お茶の水女子大学 2016）。学部別では、文教育学部、生活科学部は 9 割以上の新入生が本学を第一志望と回答しているが、これに対して理学部での第一志望の割合は 77.4%と低い。



図表 3-3 本学の志望の度合い

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-4 である。

「浪人」は全体で14.6%であり、「この中にはない」が全体の72.8%である。浪人は平成28年度では16.8%で、今年度は2.2ポイント減である。学部別では、浪人の割合が異なり、文教育学部が5.5%と少なく、生活科学部は22.4%、理学部は19.4%である。平成27年度と比べると、生活科学部では浪人の占める割合が17.4%から22.4%と5ポイント増加し、文教育学部は5.7ポイント、理学部は6.1ポイント減少した。今年度の新入生には、高校卒業から調査時点までの間に海外留学をしたものはいなかった。

図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

	他の高等教育機関 入学	浪人	この中には ない	無回答
全体	1.2%	14.6%	72.8%	11.9%
文教育学部	0.6%	5.5%	81.6%	12.3%
理学部	0.0%	19.4%	64.5%	16.1%
生活科学部	3.4%	22.4%	69.0%	6.9%

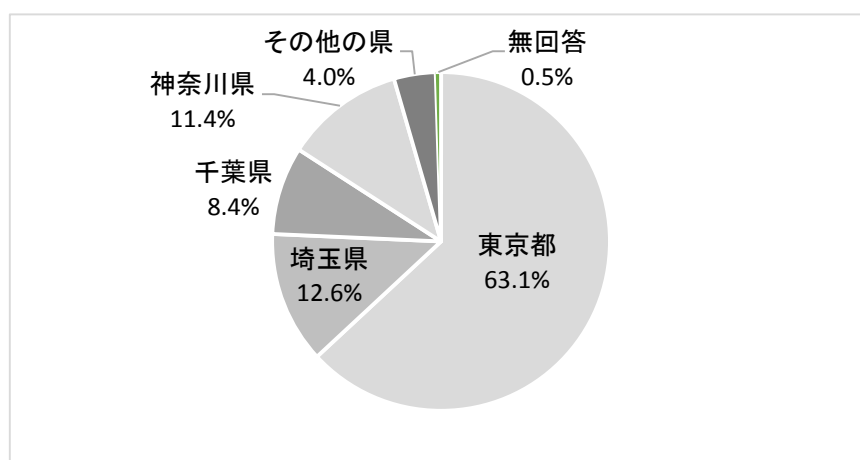
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定についての調査結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1か月の家賃の予算、④1か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧大学生活での不安・心配事、⑨本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

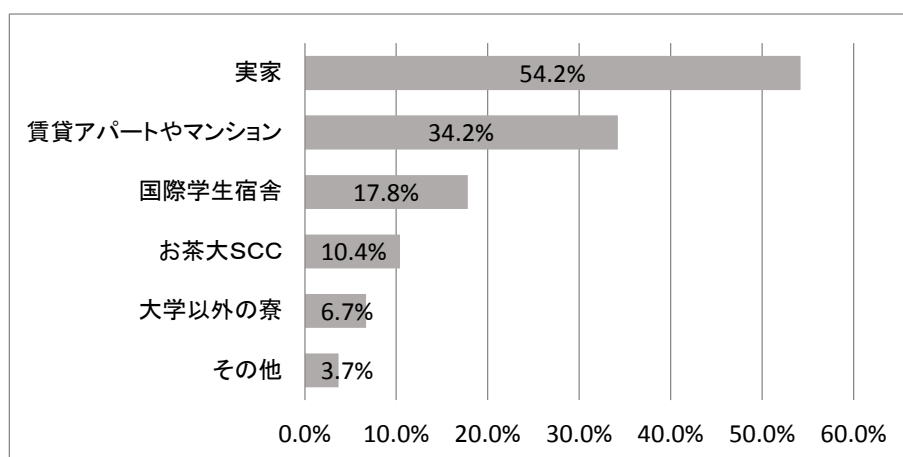
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について示す。全体では、東京都が63.1%と最も高く、埼玉県、千葉県、神奈川県と続き、例年と同様の傾向である。



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

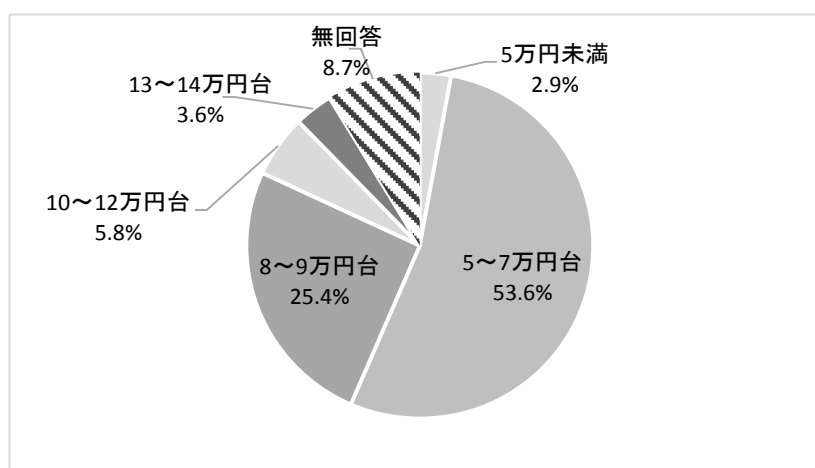
図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果である。全体では、「実家」が 54.2%を占め、次いで、「賃貸アパートやマンション」34.2%、「国際学生宿舎」17.8%、「お茶大 SCC」10.4%といった学生寮が続いている。この結果は平成 28 年度新入生では実家と回答した人は 57.1%であり、今年度は 54.2%とやや実家外の割合が多くなった（お茶の水女子大学 2016）。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。「5～7 万円」が 53.6%と最も多く、次いで「8～9 万円」25.4%である。両者を合わせると約 8 割の学生が 1 か月の家賃として 5～9 万円を予定していることがわかる。平成 28 年度新入生では「5～7 万円」は 60.1%、「8～9 万円」は 22.3%であり、今年度は「8～9 万円」の高い家賃を予定している学生が多い。

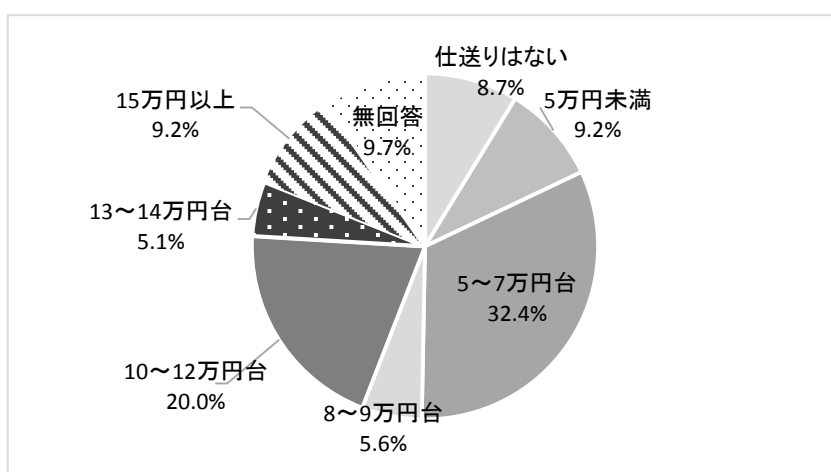


図表 4-3 1か月の家賃（管理費込み）の予算

④ 1か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 は、1か月あたりの仕送り予定金額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。「5～7万円」が32.4%と最も多く、次いで「10～12万円」20.0%という結果である。一方で「仕送りはない」8.7%を含め、仕送り予定が10万円未満の学生は55.9%である。「仕送りがない」新生は、平成27年度は4.8%、平成28年度は9.9%、今年度は8.7%見られた（お茶の水女子大学 2016）。

なお「第52回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生生活協同組合連合会 2017）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が5～10万円の学生は38.8%と最も多く、仕送り10万円以上29.2%を超え、減少傾向である。そして仕送り0の割合は8.0%、5万円未満は15.8%である。この調査と本調査を比較すると、自宅外に居住する学生の仕送り金額は、全国の大学生の平均的な水準であるといえる。

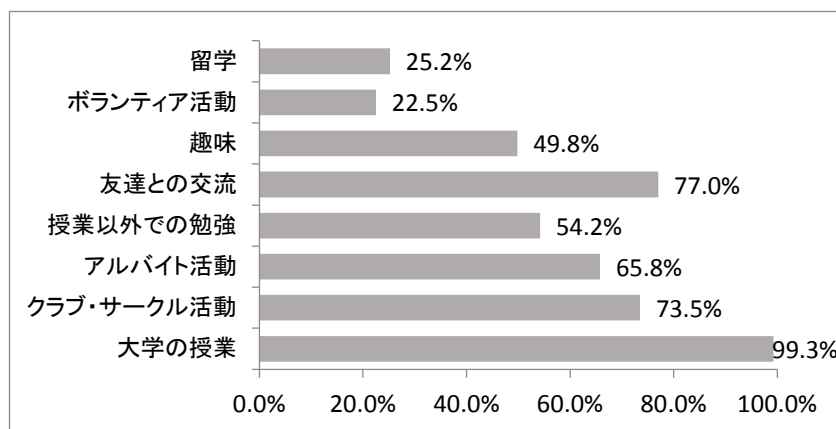


図表 4-4 1か月あたりの仕送り予定金額

⑤ 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

図表 4-5 に、入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が99.3%と例年通り最も高い。続いて、「友達との交流」77.0%、「クラブ・サークル活動」が73.5%と全体の7割を超えている。

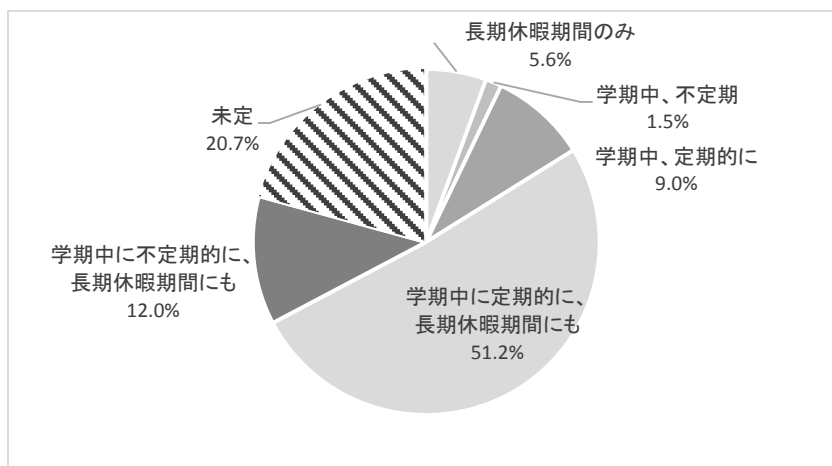
今年度の調査から新たに「留学」を加えたところ、新生のうち25.2%が留学について力を入れたいと回答している。



図表 4-5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

⑥ アルバイト活動の予定

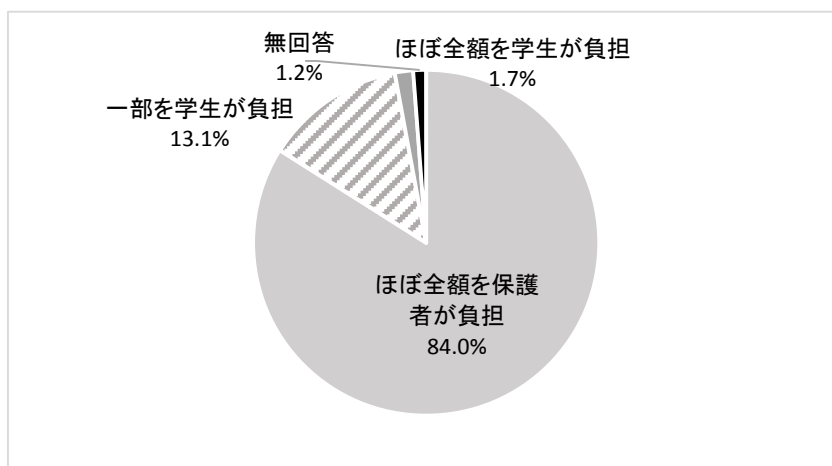
図表 4-6 は、入学後のアルバイト活動の予定について、その予定のある者に対して尋ねた結果である。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」51.2%と昨年度 48.7%より 2.5ポイント増加した。また学期中に定期的なアルバイト活動を予定している学生は約 6 割であり、昨年と同様の傾向である。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 は、授業料の負担予定について尋ねた結果である。「ほぼ全額を保護者が負担」が 84.0%である。「一部を学生が負担（奨学金、アルバイトなどを含む）」は、13.1%であった。「ほぼ全額を学生が負担」する新入生は 1.7%である。



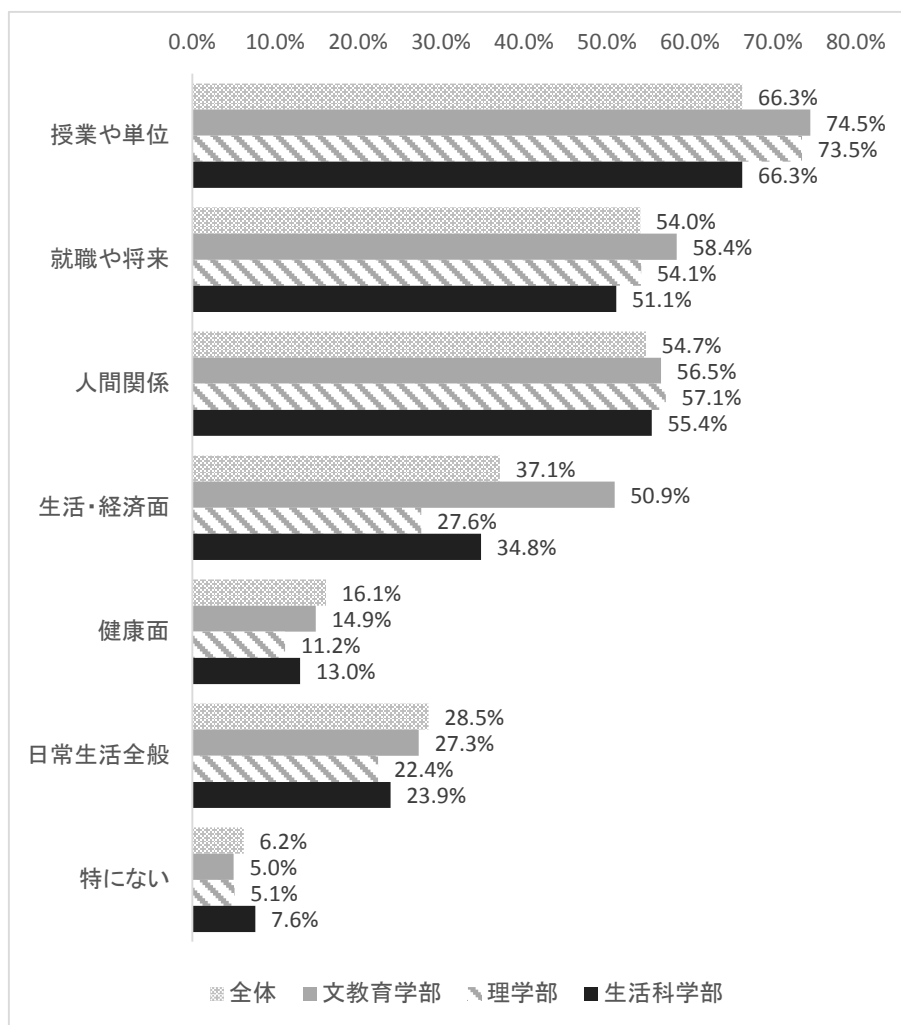
図表 4-7 授業料の負担予定

⑧ 大学生活での不安・心配事

図表 4-8 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果である。

「特になし」は全体の 6.2%であり、学部別では生活科学部では 7.6%と高い。最も多い項目は「授業や単位」が全体の 66.3%であり、「人間関係」54.7%、「就職や将来」54.0%がそれに続いている。これら上位 3 項目の割合は例年ほぼ同様である。学部別では、文教育学部は「生活・経済面」

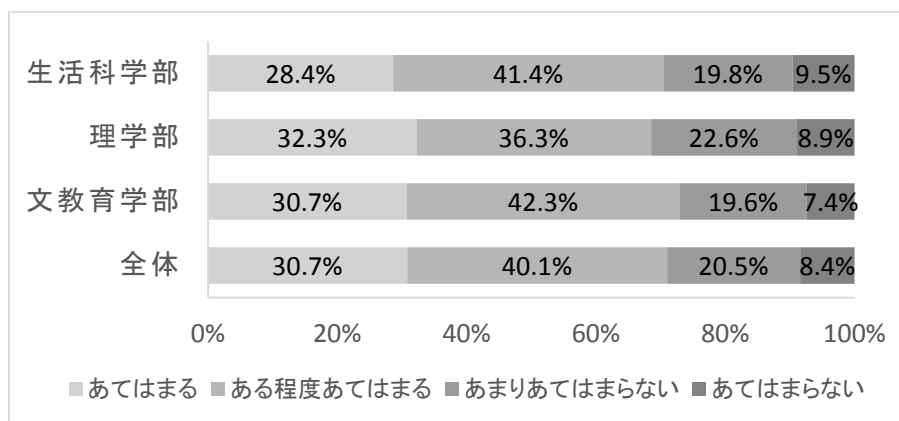
についての回答が 50.9%と他学部より高い。



図表 4-8 大学生活が始まって心配なこと

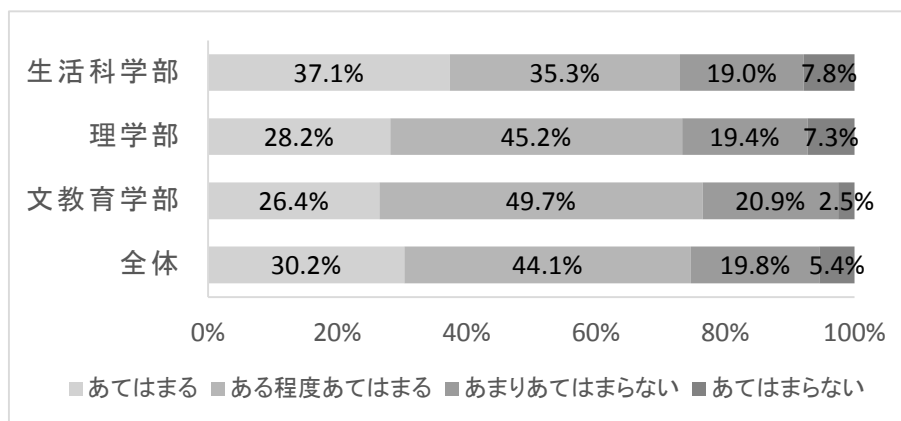
さらに図表 4-9 から図表 4-12 に大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ちについて 4 件法で尋ねた結果を示す。

図 4-9「充実したキャンパスライフを送れるか」については、心配事として「あてはまる」「ある程度あてはまる」と回答した新生は、全体で 30.7%、40.1%であった。

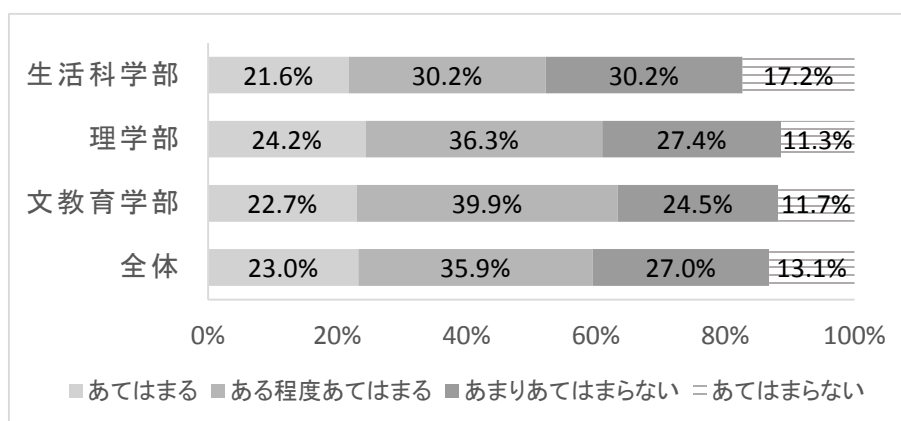


図表 4-9 充実したキャンパスライフを送れるか

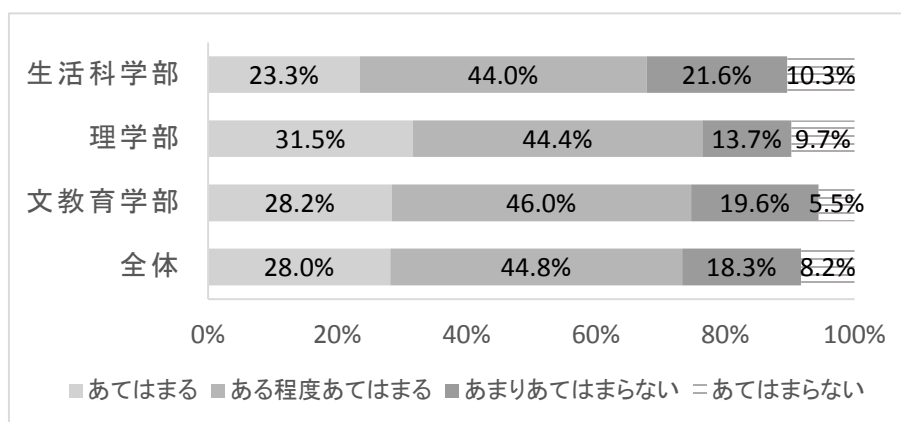
図表 4-10 「授業についていけるか」を不安に思う割合は、全体で「あてはまる」30.2%、「ある程度あてはまる」44.1%と最も高い。図表 4-11 「将来の目標が見つかるか」については、全体で「あてはまる」23.0%、「ある程度あてはまる」35.9%である。文教育学部では、「あてはまる」と「ある程度あてはまる」がやや高い。図表 4-12 「卒業後ちゃんと就職できるか」については、理学部の該当率が高く「あてはまる」31.5%、「ある程度あてはまる」44.4%である。



図表 4-10 授業についていけるか



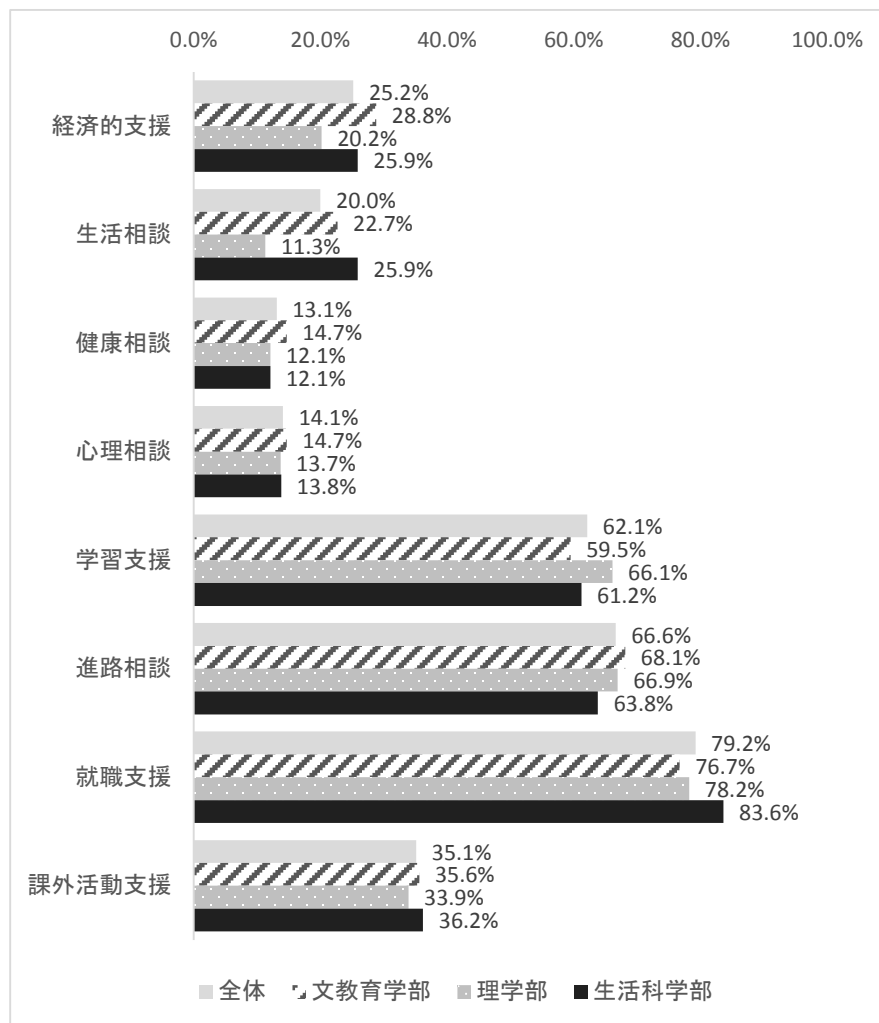
図表 4-11 将来の目標が見つかるか



図表 4-12 卒業後ちゃんと就職できるか

⑨ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-13 は、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。全体では、「就職支援」が 79.2%と最も高く、次いで「進路相談」66.6%、「学習支援」62.1%となっている。学部別では、文教育学部は「進路相談」を期待する学生が 68.1%と、全体より高い割合である。生活科学部は「経済的支援」25.9%、「就職支援」83.6%などが全体に比較して高い。理学部では、「学習支援」66.1%と他学部比べて期待する学生が多い割合である。



図表 4-13 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

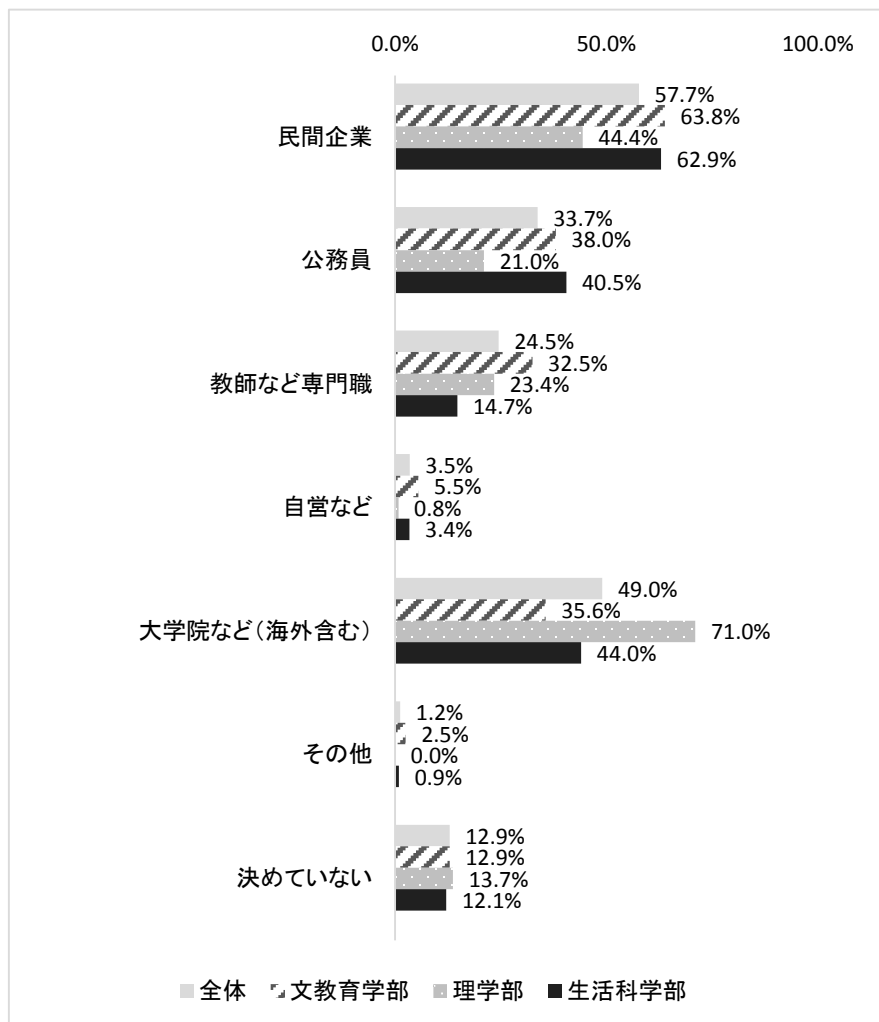
本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、複数回答可として尋ねたものである。

全体で見ると、「民間企業」が最も高く 57.7%、「大学院など（海外含む）」がそれに続いて 49.0%であった。ただし「大学院など（海外含む）」は学部による差異も大きく、理学部では 71.0%であるが、文教育学部では 35.6%程度であった。これらの傾向は、平成 28 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2016）。

「公務員」を志望する新入生は全体の 33.7%、「教師など専門職」を志望する新入生は全体の 24.5%である。学部別の特徴として、公務員をする新入生は、生活科学部、文教育学部に多く、教師など専門職は圧倒的に文教育学部が他学部比べて多い割合である。そして、進路を決めていない学生も 12.9%ほど見受けられる。

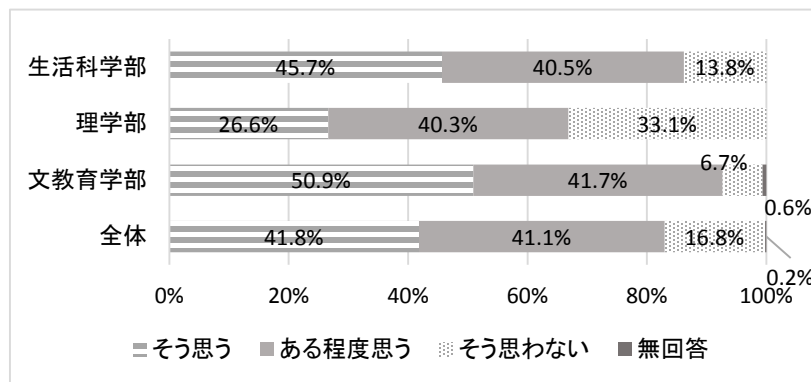


図表 5-1 大学卒業後の進路希望

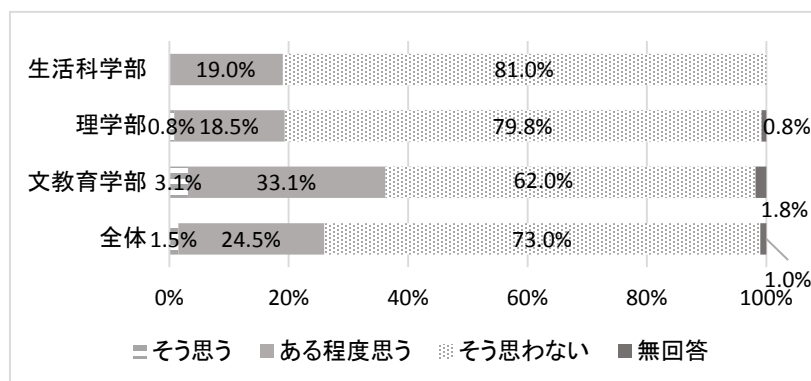
② 大学卒業後のキャリアについての考え

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センターが2007年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件法で尋ねた結果のうち、6項目の結果を図表5-2から図表5-7に示す。

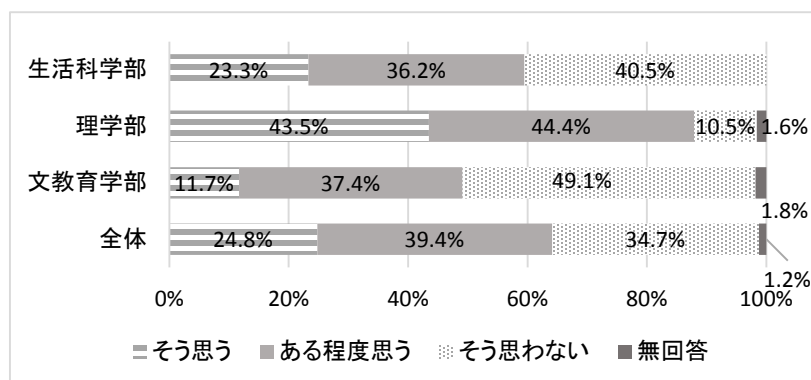
図表5-2から図表5-5は、「卒業後の進路」について尋ねた結果である。「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」について、全体で「そう思う」「ある程度思う」と回答した人（該当率）は82.9%である。一方で「すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない」の該当率は26.0%である。この結果は、これまでの新入生と同様の傾向であり、新入生が大学卒業後すぐに正規雇用を志向していることがうかがえる（お茶の水女子大学 2016）。



図表 5-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



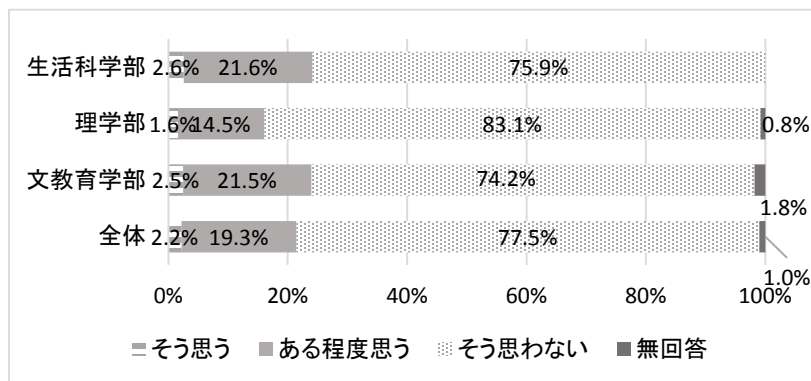
図表 5-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない



図表 5-4 すぐに大学院などに進学する

「すぐに大学院などに進学する」の全体での該当率は64.2%である。特に理学部が高く、理学部の該当率は87.9%であり、これまでの新入生と同様である（お茶の水女子大学 2016）。

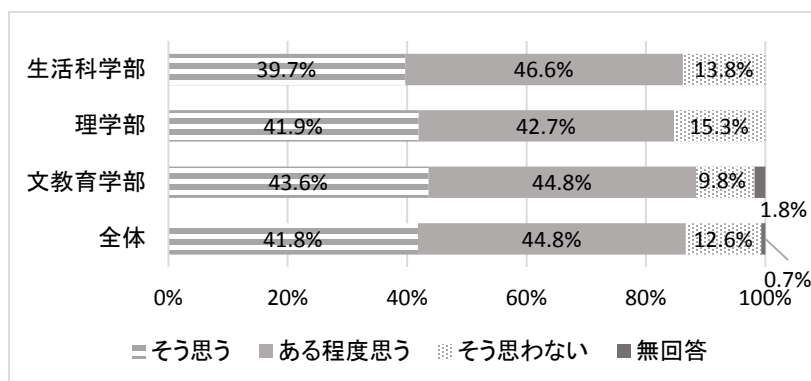
「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」は、全体での該当率は21.5%と例年に比較して低い割合である。「そう思わない」と回答した新入生の割合は理学部が83.1%と他学部と比較して高いことが特徴である。



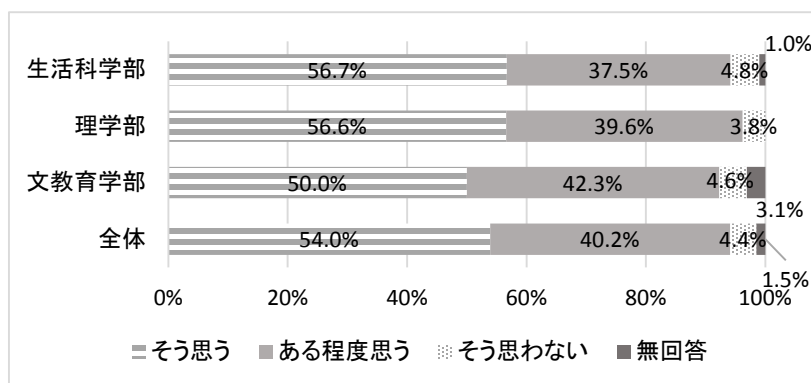
図表 5-5 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない

次に図表 5-6 と図表 5-7 は、「就職後の勤務・退職」について尋ねた結果である。

いずれの項目も学部による大きな差異はみられず、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」に該当する人は全体の86.6%に及んでいる。新入生の時点では初職を継続することの意識は高い。



図表 5-6 最初の就職先にできるだけ長く勤める



図表 5-7 結婚・出産後も仕事を続ける

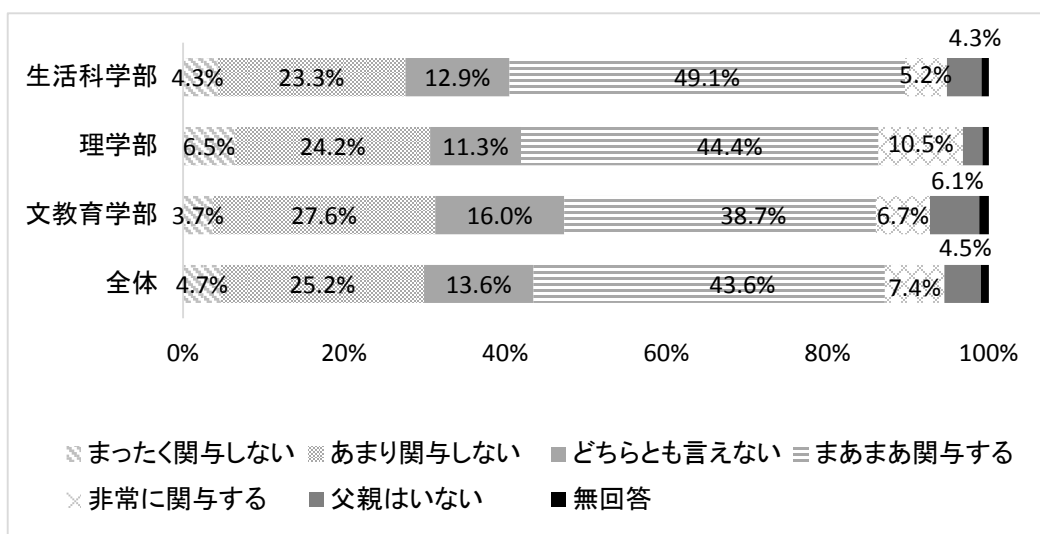
図表 5-7 「結婚・出産後も仕事を続ける」の該当率は全体で 94.2%であり、「そう思わない」に回答した人は全体では 4.4%である。結婚・出産後も就業を継続する意志があるものが 9 割以上を占める。昨年度までの調査項目は「結婚・出産したら仕事をやめる」としており、平成 28 年度では「そう思わない」と回答した新生入生は 70.7%であった。これと比較すると今年度の新生入生は結婚・出産を経ても就業継続をする意思をもつものの割合が多いことが特徴である。

③ 就職や将来に関する親の関与

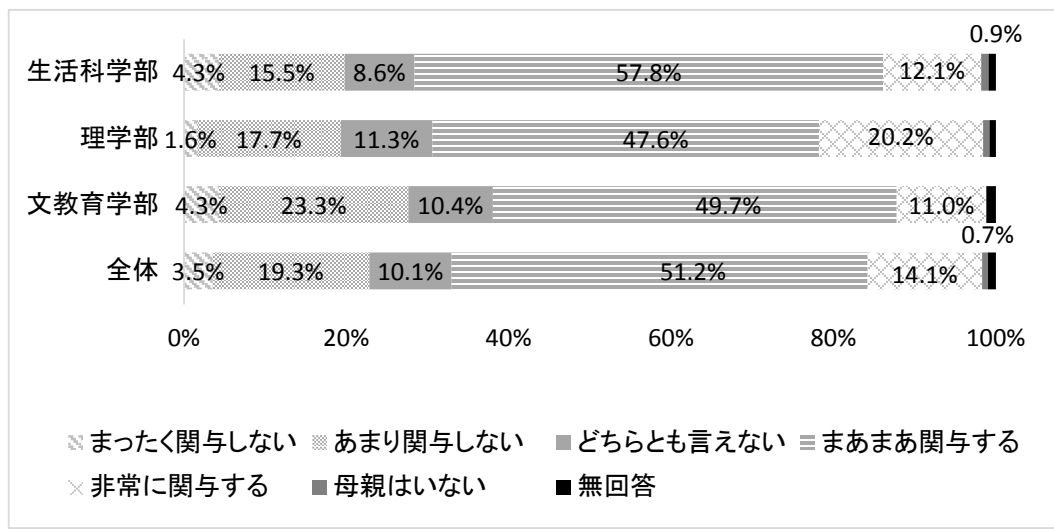
就職や将来に関する親の関与について「あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことにに関して、どれくらい関与しますか。」として 5 件法で尋ねた。図表 5-8 に父親の関与についての結果を、図表 5-9 に母親の関与についての結果を示す。

はじめに父親の関与について、平成 29 年度新生入生は、就職や将来のことにに関して、全体の 51.0%に父親の関与がある（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」）と回答している。同様に母親に関しては、全体の 65.3%に母親の関与がある。父親、母親ともに半数以上の割合で関与していることから、大学卒業後の進路に対する支援活動については、保護者への進路支援活動の説明および保護者が進路選択に果たす役割などについて大学から情報を提供することが有益であることが考えられた。

学部別では、理学部と生活科学部で親の関与する割合が多い。理学部では、父親が関与する割合が 54.9%と多く、母親の関与の割合も 67.8%と多い。特に理学部では父親および母親が「非常に関与する」の割合が多いことが特徴である。同様に生活科学部でも親が関与する割合が高く、父親の関与する割合が 54.3%、母親が関与する割合も 69.9%と高いことが特徴である。



図表 5-8 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-9 就職や将来のことに関する母親の関与